

授業科目名	行動変容アプローチ(2300234)		
時間割名	行動変容アプローチ(14203)		
時間割担当	中川晶 矢野かおり		
実施期	前期	単位数	1 選択
曜日・時限	月・4		

授業の目標・概要

病気には患者の内にある物語という側面がある。この部分が変容しなければ病気は治らない。つまり病気物語の変容が促進されるような種類のコミュニケーションが行われることが治療的な関わり方といえる。患者の行動変容を促進するためのスキルとして、精神医学、臨床心理学、認知心理学など様々な分野からのアプローチを学ぶ。

学習の到達目標

行動が変容するとは、どのようなことかを理解する。様々な問題行動、例えば喫煙行動、飲酒行動、過食、運動不足などはどのような心理学的メカニズムで出現維持されるのか、またそのような問題行動に対して、外側からではなく本人自らが行動を改めるためには、どのようなアドバイス取り組みが出来るのかを、考えることができ。計画を立案、実行できるようにすること。

授業方法・形式

基本的には講義形式で行うが、コミュニケーション・スキルの実習としてロールプレイング形式のワークショップを行う。

授業計画

- 第 1回 行動変容とは何か。(医療における行動変容の重要性、意義)
- 第 2回 行動変容の理論(行動療法、カウンセリング、認知療法、ナラティブアプローチ)
- 第 3回 行動変容の方法、その1(チーム医療の重要性への気づきを促進する)
- 第 4回 行動変容の方法、その2(模擬・カウンセリング)
- 第 5回 行動変容の方法その3(技法のまとめ:ディスカッション)
- 第 6回 危機状態での人間の行動
- 第 7回 病気と人間
- 第 8回 病の語り(病気の物語とどう向き合うか)
- 第 9回 ナラティブ・コミュニケーションとは
- 第10回 ナラティブ・アプローチの基礎
- 第11回 ナラティブコミュニケーション実習1
- 第12回 ナラティブコミュニケーション実習2
- 第13回 ナラティブコミュニケーション実習3
- 第14回 ナラティブコミュニケーション実習4
- 第15回 行動変容アプローチのまとめ

成績評価の基準

レポートと出席点を評価の基準とする

授業時間外の課題

メッセージ

教材・教科書

セラピスト入門 システムズアプローチへの招待 日本評論社

参考書

- 1 「講義と演習で学ぶ保健医療行動科学」日本保健医療行動科学会(平成29年出版)